河原地区　地域づくり懇談会　　議事録

１　日　時　平成２７年１０月３０日（金）　１９：００～２０：１０
２　会　場　河原地区公民館
３　出席者　地元出席者　　２３名
市側出席者　　１６名
深澤市長、羽場副市長、河井総務部長、田中中核市推進監、田中企画推進部長、藤井都市整備部長、久野地域振興監、高橋秘書課長
＜河原町総合支所＞窪田支所長、西尾副支所長（司会）、谷口市民福祉課長、長谷産業建設課長
＜事務局＞馬場協働推進課長、岡本協働推進課課長補佐、岡田協働推進課主任、國本協働推進課主事

４　中核市移行についての説明
（中核市推進監）※チラシに基づき説明

５　人口ビジョン・創生総合戦略についての説明
（企画推進部長）※チラシに基づき説明

６　市政の課題等についての意見交換（フリートーク）
（地元意見）
現在、国英地区の山手工業団地が造成されているようです。合併前に建設された当初は、企業はどんどん進出してくるから心配しなくてもよいと人から聞いていました。しかし、私が以前住んでいた米子市近くの境港竹内工業団地には企業が全く入らず、現在では個人にも売却されるなど、本当に活用がされませんでした。そのようなこともあり、同様に造成している山手工業団地を心配しています。

（深澤市長）
企業誘致は鳥取市として非常に重要な取り組みです。結論から言いますと、鳥取市は企業誘致が順調であり、工業団地が足りなくなってきています。平成２７年度以降、非常に優良な企業の進出が３件続きました。１つは、こちらの山手工業団地に進出される株式会社イナテックです。ここは自動車部品のオートマティックのトランスミッションの重要な部品を製造される、愛知県の会社です。今年８月から工事にかかっておられ、やがて工場建物が立ち上がってくると思っています。５．４ｈａの用地のうち、かなりの部分をご購入いただいてご活用いただく計画であり、また約１００人の正社員を中心とした雇用をしていただけると考えています。市町村合併前には、地域振興整備公団と鳥取県、そして旧河原町の三者により、「中核工業団地」として、現在の計画より少し大きな工業団地を造る計画があったようですが、国の状況が変わり地域振興整備公団がなくなったこともあり、１９．２ｈａの用地を取得していた状況で平成１６年１１月の市町村合併を迎えたという

経緯があります。山手工業団地もやがて埋まっていくと思いますし、今は布袋工業団地を拡張する計画を進めていこうとしています。

布袋工業団地も、数社の企業進出が決まっています。１つは、マルサンアイ株式会社という大手の豆乳メーカーです。また、小型金属のプレス加工をする株式会社ササヤマという鳥取市の企業も布袋工業団地に立地いただくことになっているなど、非常に優良な企業の進出が相次いでいます。

また、新津ノ井工業団地では、世界的な航空機会社から直接発注がくるような飛行機部品の製造会社である今井航空機器工業株式会社が、工事にかかっておられます。早ければ、来年２月頃には工場が完成すると聞いています。

このように、工業団地はむしろ不足している状況です。

（地元意見）

布袋工業団地の水源はどのようにする予定ですか。工場が建てば必ず排水もあります。

鳥取市には叶に水源地があり、千代川の伏流水を取っていますが、水が汚れるなどの心配はないのでしょうか。設計段階や実施段階で、そのあたりも踏まえながら進めているのでしょうか。

（深澤市長）

上水道は江山浄水場からも引いています。また、マルサンアイ株式会社は、地下水を利用する計画も持っておられるとのことです。マルサンアイ株式会社は飲み物のメーカーですので、水が一番の決め手であり、鳥取市の水質の良さを評価いただいたことが企業進出の１つの理由にもなっています。

排水については、下流域で取水している伏流水の水質に影響が出ないような排水設備等を整備していくとのことですので、ご安心いただきたいと思います。

（地元意見）

国英地区の可燃物処理施設の建設が、長期間にわたり進展していないようです。また、報道等によると裁判で決着をつけなければいけないようですが、進捗状況はどうですか。

（深澤市長）

１０月２１日に広島高等裁判所で控訴審の判決が出て、原告の主張が棄却されました。我々が主張してきたことを認めていただいたと考えています。

この新しい処理施設は、「１日当たり３６０ｔの処理能力を持つ施設を東部圏域に建設していこう」という計画を立て、平成１８年４月に地元の皆様にお願いさせていただいたのが始まりです。それから９年が経過しており、国英地区の１４集落のうち１３集落については正式に同意をいただいています。残り１集落に対しても誠意を持ってお願いしており、ご理解いただくべく努力を重ねているところです。喫緊の課題ですので、１日も早くご理解いただき、事業を着実に進めていきたいと思っているところです。

（地元意見）

毎年地区要望の回答がきますが、要望が実施されることが少ないです。ほとんど実施されないとまでは言いませんが、要望事項に対して実績が少ないと思います。回答も極めて常識的な内容で、具体性がないように感じます。要望はできるだけ実施してほしいです。

（深澤市長）
市内全地区からいろいろなご要望をいただきます。我々もできる限りご要望にお応えできるようにと一所懸命検討していますが、なかなか一挙に実現させていただくことができず、大変申し訳ないと思っています。今後も引き続き努力していきたいと思いますし、回答についても、なぜ今実施できないのかといったことも含め、もう少し丁寧で具体的な回答になるよう努めたいと思います。

（地元意見）
谷一木集落から天神原に抜ける、谷一木棚組線という林道があります。昨年までは、鳥取市が道の周辺の草を刈って、普通自動車も十分通行ができていましたが、今年はまだ全く草刈りがされておらず、草は生え放題で倒木もあり、軽トラックがやっと通行できる程度です。周辺には田んぼや畑があるし、山もあるため森林組合もよく通行しているので、毎年整備してほしいです。

（深澤市長）
今一度、総合支所による現地確認を行い、その上で対応策を考えたいと思います。

（産業建設課長）
林道谷一木棚組線は、例年草刈りを実施していますが、今年は他の林道等の草刈りを優先したため大変遅くなっています。実施の目途が立ち、すでに業者には依頼していますが、まだ現場の作業に入っていません。非常にご迷惑をおかけしていますが、早急に実施するよう再度確認して指示します。

（地元意見）
鮎ヶ丘から布袋までの市道に至る間に、農道が５本あります。我々は１号線、２号線、３号線というように呼んでいますが、５号線を除く１号線から４号線までの間に、横断歩道を設置してほしいです。この市道は改修の予定があるので、その工事に併せて設置をお願いします。市道西側に渡る住民が大変多いし、直線のために自動車がかなり速いスピードで通行するなど、非常に危険です。

（副支所長）
横断歩道は、鳥取県公安委員会の権限により設置されます。地域の方や総合支所、智頭警察署とで現地を確認し、交通量や危険性などによって横断歩道が必要と判断されれば、設置することになります。
今後、現地確認を実施し、警察署の判断を仰ぐことになると思います。

（地元意見）

県道３２号線長谷線を河原方面に進み、布袋を通ってすぐの所に、鮎ヶ丘方面に曲がる市道があります。そこが非常に暗いです。これから冬になりますが、照明がないために通り過ぎそうになって急ブレーキを踏む危険性もあります。現時点で事故はありませんが、大事故につながると思うので街灯の設置をお願いします。

また、大井出川に渡る橋が３本ありますが、そこに欄干を設置してほしいです。橋の中には市営墓地に通じる橋もあります。今は、橋の端１０ｃｍ程度をコンクリートで上げてありますが、高齢者が増加しており、踏み外して川の中に落ちてしまうと上がれなくなります。水量も多いため、非常に危険だと思います。高さ１ｍ程度の鉄柵を設置すれば、危険防止になるのではないかと思います。

（産業建設課長）

２件については、それぞれの現場を総合支所が現地確認しており、現在、関係課と協議しながら検討を進めているところですので、近日中に部落長さんに経過報告等をさせていただきたいと思います。

（地元意見）

今年７月に上渡一木集落で救急車を呼んだところ、救急車が公道ではない集落内の道路に進入し、立ち往生しました。そして結局、用瀬出張所の救急車が応援に来ました。これは人命に関わることです。これが火災などであっても大変なことになると思います。どこの集落も、集落の中の道路は非常に狭いです。緊急車両は一方通行で入るなどのマニュアルを作り、東部広域行政管理組合に徹底してください。

（深澤市長）

通行ができず立ち往生したということであれば、消防局も承知していると思います。私が東部広域行政管理組合の管理者ですので、今後、緊急車両の出動時にこのようなことがないよう、徹底を図りたいと思います。

（担当課補足：東部広域行政管理組合）

地域の皆様にはご迷惑とご心配をおかけし、大変申し訳ございません。

日頃から各所属においては、災害等発生時に備えて消火栓や河川などの水利状況や道路・橋などの地理状況の把握に努めており、有事には消防活動に支障が出ないよう心掛けていますが、このたびの事案では、ルート選択の判断を誤って狭隘道路に進入し、別の救急隊を要請することとなりました。

これを受けて、当消防局では各所属長を招集し、改めて地理・水利の状況把握の徹底と再発防止に向けての対策をとるよう指示したところです。

今後はより一層地域に密着し、安全・迅速な消防活動を行うことによって皆様の信頼に応えていきたいと考えています。

（地元意見）

３年後に中核市に移行し、鳥取市の市民サービスを向上するとのことですが、「中核市」という表現がまだ浸透していないと感じています。分かりにくい部分があると思うので、今後の説明会等でも、もっと具体的な抱負などを挙げた方がよいと思います。

私は民生児童委員をしています。河原町内で高齢者を訪問していても、民生児童委員法や児童福祉法以外の相談内容が大変増えてきています。限界集落や過疎地域になるのではないかという地域不安の中で将来の生活への不安を述べられたり、アルツハイマーの治療を受けるよう言われたがどうしたらよいか分からないといった、医療ニーズの多様化による相談内容も出てきています。

中核市移行にあたり、健康づくりに関するさまざまな具体的な提案を、市民に報告してほしいです。福祉講演会などでもそういった話があれば、民生児童委員も、高齢者や児童の家を訪問した際に具体的な話ができると思います。

河原町は中山間地域であり農村地帯です。一部の地域はすでに過疎化していますし、５年先や１０年先の将来は限界集落がどんどん出てくる可能性もあります。町民の健康と安心を確保することについて具体的な提案をしてほしいし、説明する機会も増やしてほしいです。鳥取市に保健所がくることも、まだ少し分かりにくい部分があります。

（深澤市長）

日頃から、地域福祉の増進等に大変ご尽力いただいています。まずは心から感謝申し上げます。ありがとうございます。

現在、全国どこの地域でも、人口減少や少子高齢化が非常に大きな課題になっています。中核市移行は、鳥取市はもとより、周辺４町を含めた鳥取県東部圏域が今後も存続し発展していくために欠かせない選択であると私は考えています。鳥取市は特例市ではなくなり、今は普通の「市」に戻っています。中核市に移行して、鳥取県東部圏域や山陰地方の東部圏域の中心的な役割を果たすまちとして発展していくことにより、例えば道路整備や鉄道整備の際も、国が、中核市である鳥取市周辺から整備していかなければならないという見方をしてくれるのではないかと考えています。いわゆる拠点性、都市のステイタスが全然違うと思います。１０年先、２０年先、そしてもっと先を見据え、今、中核市に移行するという判断をしていかなければならないと考えています。

中核市に移行すると、福祉はもとより教育、環境、都市計画、まちづくりなどのさまざまな分野で、２，２１１の事務が鳥取県から鳥取市に移譲されます。福祉分野では、現在は身体障害者手帳の交付事務が都道府県の事務であり、市役所で交付申請をお受けして県に送付し、県が障がい名や等級を決定し手帳を発行され、完成した手帳を市が受け取って申請者に連絡して受け取りに来ていただいています。中核市に移行すると、市が直接申請をお受けし、障がい名や等級を決定して手帳を交付することになります。他市の例でも、中核市移行前と移行後では、申請から交付までの日数が確実に短くなっています。障害者手帳を持っておられる場合、医療関係や交通機関の割引、税控除などのさまざまな制度が適用になるため、交付から申請までの期間が短くなることによって大変便利になります。また、市が障がい名や等級を直接決定することから、さまざまなご相談に、直接、責任をもってお答えすることができるようになるというメリットもあります。また、母子寡婦福祉資金の貸付も県から市に移譲されます。倉敷市だったと思いますが、中核市移行前と移

行後では、貸付の利用件数が増えてきたということもあるようです。
　県の保健所業務と鳥取市の保健センター業務を一体的に行うことにより、福祉サービス、福祉行政の面で市民の皆様にとって非常に分かりやすくなり、福祉サービスの向上につながるのではないかと思います。
　分かりづらい部分がまだまだあることは、我々も承知しています。毎月発行している「とっとり市報」でも中核市関連の記事を掲載していますが、なぜ今、中核市に移行するのかといったことも含めてご理解いただけるよう、今後も引き続き、丁寧にご説明させていただきたいと思っています。
　また、民生児童委員さんにおかれては、市民の皆様から非常に幅広いご相談をお受けいただいていると思いますので、ご不明な点があれば総合支所や本庁にご一報ください。

（地元意見）
　私は、奥長瀬という奥部に住んでいます。山奥に住んでいるものの部落づくり、集落づくりについて、行政で考えてほしいです。そういった地域について、どのように考えていますか。

（地域振興監）
　鳥取市の９２％が中山間地域であり、鳥取市全域のいろいろな集落で「限界集落」と言えるところも出てきています。地域振興監では、「中山間地域振興推進員」を本庁舎地域振興課に３名と、３つの総合支所に１名ずつ配置しており、集落に出向いて集落の課題や活性化、維持の相談に乗ったり、限界集落見守り活動として、月に１回か２回程度、６か所の限界集落の状況を確認し、問題があれば関係部署に相談するようにしています。また、「とっとり集落創造シート」を活用しながら、集落の皆様に、人口減少の度合いを把握していただく取り組みをしています。
　総合支所にご相談いただければ、本庁舎地域振興課からでも出向かせていただき、いろいろなご相談をお受けしたいと思います。

（地元意見）
　鮎ヶ丘から布袋線に抜ける幹線道路で、長瀬の前を通って「ハウジングランドいない」の方に出てくる道路は、元々は農免道路だった道路を市道に格上げしました。かなりの重量の自動車が通る道路です。鮎ヶ丘の住宅までは住宅公社が整備したので、元々の路盤の構造がしっかりしています。しかし、そこから下手は農免道路の構造のままであるため、路肩が崩れ、舗装の至る所に亀裂が入ったり陥没したりしています。その都度補修しても追いつきません。ヒューム管が横断している水路の辺りの基礎が悪いために、水路の前後のコンクリートが陥没しているのだと思います。全線を補修するまでの間はそこを修繕しておかないと、危ない箇所が４、５か所あります。鮎ヶ丘団地ができて道路が貫通したために重量のある自動車が通ることになったのであり、元々は想定外だったことです。市の責任で補修してください。

（産業建設課長）

市道布袋袋河原線については過去に何度も要望をいただいており、昨年、調査測量を実施しました。以前は農免道路だったということで通常の道路と路盤の構造が違うため、弱くなっています。道路の表面だけ舗装しても根本的にもたないという専門家による調査結果を聞いていますが、試算したところ補修には多額の費用がかかりますので、少しずつ年次的に進めていきたいと考えています。過去には水路等の拡幅についての要望もいただいていますが、センターラインはないものの、普通自動車等がすれ違える程度の広い道路ですので、残念ながら拡幅はできません。

今は現道の補修について関係課と協議しており、予算等の財政的な面等を考えながら、少しずつ補修していく予定で進めています。

（担当課補足：総合支所産業建設課）

当該市道は、以前から路面の亀裂・陥没等が発生し、随時部分的補修で対応しているところです。

農道仕様で道路支持基盤が弱いため、抜本的な道路改良を行う必要があると判断し、平成２６年度に調査測量を実施しましたが､概算工事費が多額となるため､年次計画を立て、道路支持基盤が特に弱い所から順次道路改良していくこととしています。

道路拡幅はできませんが、道路基盤改良工事を平成２７年度から年次的に実施することとしており、今年度は主要地方道郡家鹿野気高線との接続部（夢ヶ丘付近の三叉路）から施工する予定です。

（地元意見）

布袋線から鮎ヶ丘に抜ける幹線道路から市営墓地までの間の農道２号線も、路肩が崩れています。この市営墓地は旧河原町時代に新設されたものであり、墓参りのために一般の自動車が多く通行します。鳥取地域から来られる方もあるし、智頭町から来られる方もあります。私の場合、農免道路と田んぼが１００ｍほど離れているため、墓参りのために通行する自動車があれば、農作業をしていても、駐車している自分の車を移動させに行きます。墓参りの方なので快く移動させていますが、農作業に支障をきたしています。

除草剤を撒くため、田んぼ側の路肩は崩れてしまって通れませんが、用地は十分確保してあるので、田んぼ側を側壁にして路肩を上げれば、普通車は十分にすれ違うことができます。ぜひ、幹線道路から墓地までの２００ｍの間の路肩を上げてください。

自動車を移動させると「すみません」と言われる方もあるが、「早くよけんか」と言われる方もあるのです。墓参りの方に、「農免道路だから通るな」とは言いませんが、旧河原町が設置した墓地なのだから、市の責任があります。用地はあるのだから、水田側の擁壁を上げてもらえれば、かなりの幅員は取れます。

（産業建設課長）

一度現地を確認し、鋭意検討させていただきたいと思います。

（担当課補足：総合支所産業建設課）

市営墓地「寺住霊園」へ通じる道路の幅員は２．７ｍ～３．０ｍと普通自動車がすれ違

うには若干狭隘であり、農繁期と墓参が重なる時期には通行に支障をきたしている状況です。

今後、関係課ならびに地元関係者と協議しながら、前向きに検討していきたいと考えています。

７　市長あいさつ

一言、お礼のご挨拶を申し上げます。

大変限られた時間の中、本当に熱心にいろいろなご意見、ご質問をいただきました。大変有意義な懇談会にしていただけたと思っております。心から感謝申し上げます。

工業団地や可燃物処理施設の問題、また、中山間地域の活性化や福祉のまちづくり、そして中核市についてなど、いろいろなご意見をいただきました。我々もできる限り対応させていただきたいと思っておりますが、道路整備等、一挙に実行することは難しい部分もあります。現地を確認させていただき、できる事から少しずつでも対応させていただきたいと思っております。

合併して１０年が経過し、やがて１１年を迎えようとしています。今後、皆様と一緒に、新しい鳥取市のまちづくりをしっかり着実に進めていきたいと思っております。引き続き、よろしくお願い申し上げますとともに、熱心にご議論いただいたことに重ねて感謝申し上げ、ご挨拶とさせていただきます。本日は本当にありがとうございました。